



動き続ける式

01. 自然と人間と四則演算と

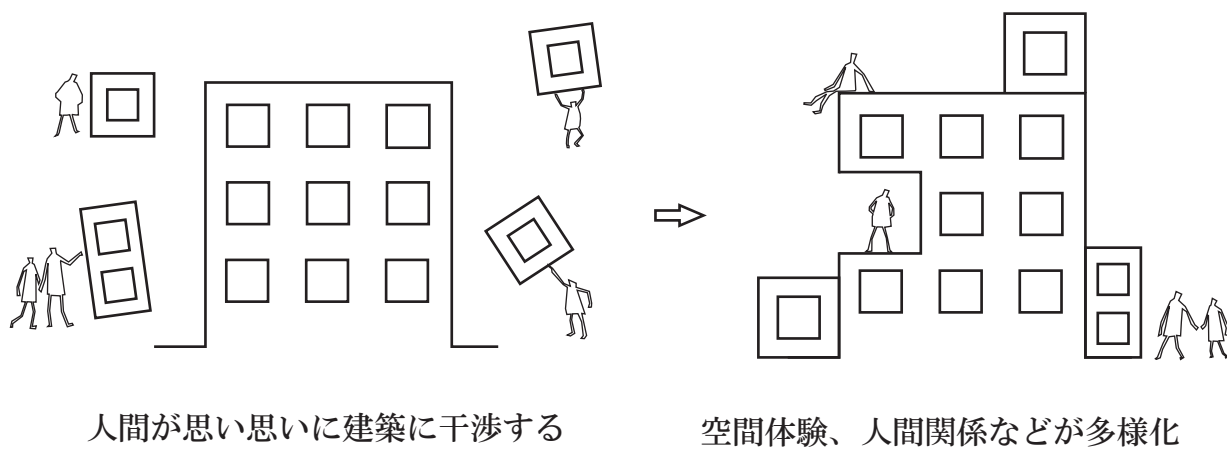
自然には様々な「 $+$ 」「 $-$ 」「 $\times$ 」「 $\div$ 」の関係が混在している



さまざまな関わり合いがあり、常に動き続ける自然に人類が干渉することによって多様で留まることのない変化をもたらしている。

02 コンセプト

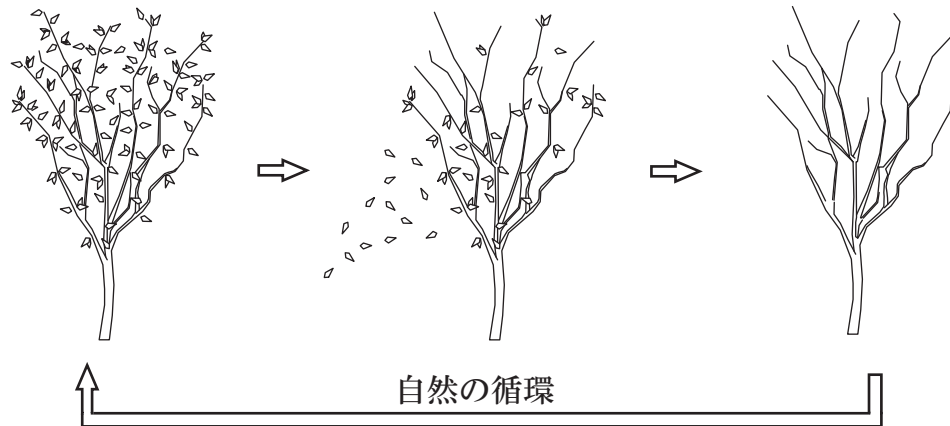
常に変化する自然を切り開き、役割や周辺環境に固定化された建築を建てすることで、人と自然・人と人同士の関係も固定化もしくは関係がない社会を作ってしまう。



人間が思い思いに建築に干渉する 空間体験、人間関係などが多様化

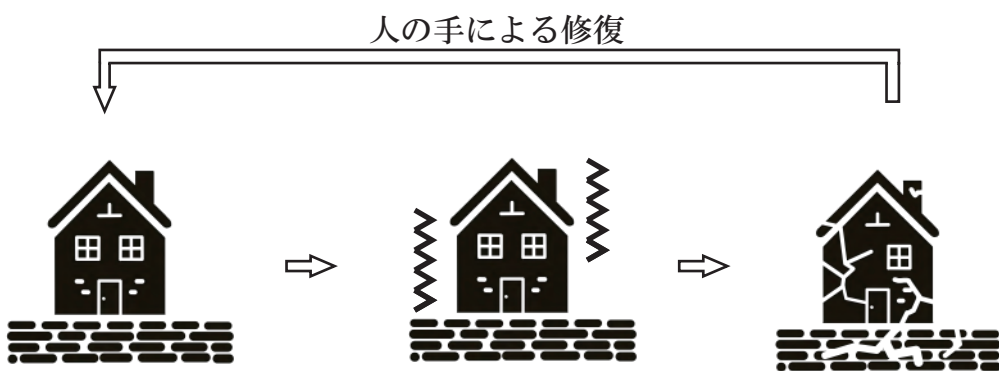
「建築は新たな式を生み出す行為である」
建築物自体に人間が干渉し変化させる過程において、物的な $+$ や $-$ ・人間同士の関わりによる $\times$ ・周辺空間に対する $\div$ などの四則演算が多く発生し、式の変化が加速する。
式の変化は人々や環境によって予測不能な形となって建築に現れる。

03 粘土の持つ役割



建築物が壊れた・建て変える際、人の関わりが発生することが不可欠である。対して自然の循環は、人の関わりがなくとも動き続ける。例えば、木は、葉っぱの生え変わりが発生する。

しかし現代の建物は壊れにくく一度建つと長い間変化しないものが多く、式が動きづらいという問題がある。



この問題を解決するため、今回は粘土を用いた。粘土が風化し堆積するさまは落ち葉と似ており新たな地形を生み出す。風化した粘土は人の手によって新しい粘土に置き換えられ、まるで木の葉のように再生する。また、粘土は人々同士のコミュニケーションが発生する仕掛けにもなっている。粘土という物質的な $+$ が発生する過程で人々がつながり、四則演算が加速する。

04 木の持つ四則演算

木はそれ自身で人間を巻き込んだ四則演算を多く含んでいる、自然と人を繋ぐ役割を持つことができる代表例であると考え。

光と影がランダムに揺れ動き、変化し続ける

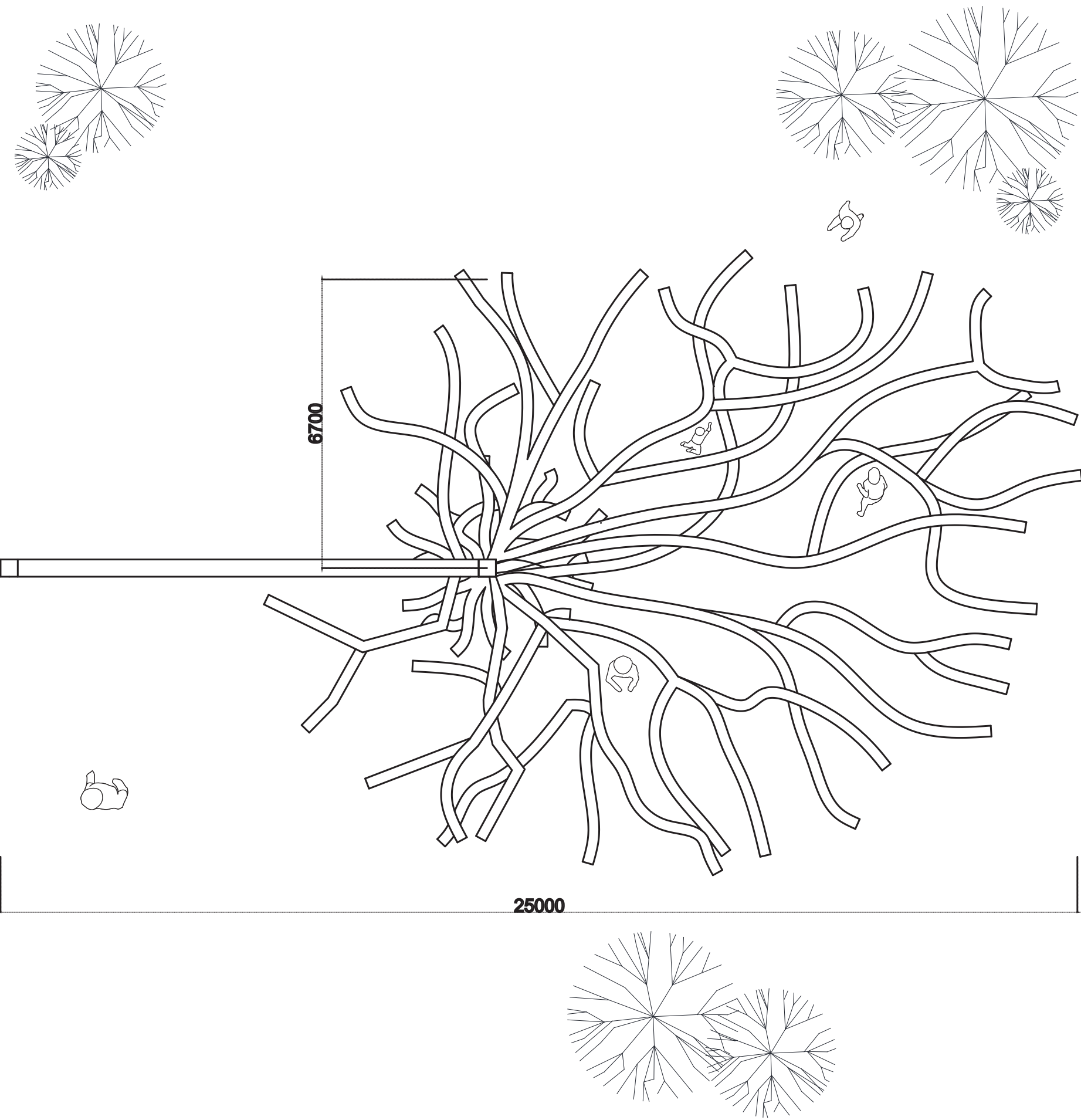
木陰や木の下は人が自然と集まる居場所となる

木の上は野生動物や虫が集まる

落ち葉はやがて肥料となり土壌を育てる

特に木の持つ、人を引き付け居場所を与える特徴に焦点を当て、その特徴を引き継いだ建築を目指す。

平面图 1/100



断面图 1 /100

